中部様式(調査事業)

令和3年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要(全体)

小浜市地域公共交通会議

平成19年7月11日設置

調查事業(計画策定) 令和4年6月 地域公共交通計画策定予定

地域の特性

- ▶ 人口 28,324人(R3.11.30時点)
- ➤ 高齢化率 32% (R3.10月時点)
- ▶ 人口は市の中心部に集中、ただし他の地区にも分布し、市域に広く薄く拡がっている
- ▶ 一人暮らしや高齢者のみの世帯が増加

地域公共交通の現況

JR小浜線、民間路線バス、コミュニティバス、タクシー等で公共交通ネットワークを形成

- ▶ 【JR小浜線】敦賀駅~東舞鶴駅(京都府内)間の沿線市町を結ぶ基幹軸
- ▶ 【西日本」Rバス若江線】小浜駅〜近江今津駅(滋賀県内)を結ぶ路線バス。京都方面への広域的な移動ニーズに対応
- ▶ 【名田庄線】小浜駅~おおい町を結ぶ路線バス
- ▶ 【コミバス】小浜駅と市内各地区を結ぶ。毎日運行5 路線と隔日運行6路線。日・祝は予約制で運行。
- ▶ 【タクシー】市内に営業所を持つタクシー会社が個別 ニーズに柔軟に対応



小浜市地域公共交通計画策定に向けた各種調査時事業の実施

種別	調査目的	調査内容	調査結果
市民ア ンケー ト	住民の移動実態 や普段の外出状 況、潜在的な公 共交通利用意向 等を把握	対象:満16歳以上 90歳未満の1,500人 回収:545人 回収率:36%	 外出手段はクルマが極めて多く、公共交通を使う人の割合は少ない コミバスの行先等の認知度が低い 市内公共交通に満足な人は少ない 一方、乗らないのでわからないという人が特に多い
意見交 換会	地域住民の公共 交通利用意向・ 意見等の把握	市内2地区で実施、 参加者:高校生〜 高齢者まで約20人	 高齢者は将来運転できなくなる不安がある バス停まで行くのが困難 地区内まで乗り入れる小型の乗り物があると良い 乗車体験会などの意識向上の取組みが必要
交通事 業者 ヒアリ ング	交通事業者が抱 える課題や今後 の取組等の把握	三福タクシー、大 和交通の2社に実 施	コロナ禍で利用客減タクシーは深夜営業を取りやめている。乗務員不足と高齢化が課題。
データ の 集計・ 分析	バス路線の利用 実態把握しバス 路線の見直し等 を検討	路線別の利用実態 の整理・分析	 コミバスの利用客は年々減少。利用客数が極めて少ない路線、利用が偏っている路線がある。 朝・夕の時間帯は学生利用が大半。日中の時間帯の利用者は極めて少ない

小浜市地域公共交通計画の基本方針については、次の上位・関連計画との整合性を図る

第6次小浜市総合計画(2021~2030)

「第5章 新たな時代に向けた住み心地の良いまちの実現」 との整合

第2項 公共交通・道路交通網



■基本方針

主要道路については順調に整備が進められていますが、なお一層地域の活性化が図られるよう必要な道 路整備を進めるとともに、側溝整備や老朽化した舗装の補修等に取り組みます。

地域に密着した生活道路については、自然環境や周辺の景観に配慮するとともに、市民が利用しやすく、 安全・安心な道路環境を確保するために必要な整備を進めます。

舞鶴若狭自動車道の全線4車線化の早期実現ならびにJR小浜線の増便・利便性の向上に向け、関係機 関へ要望します。また、JR小浜線については、さらなる利用促進に努めます。

市民の身近な公共交通機関である生活路線バス「あいあいバス」については、環境にやさしいまちの実 現に向け、運行を継続するとともに、多様化する利用者のニーズに対して先端技術等を取り入れるなど、 交通利便性の向上に努めます。

小浜市立地適正化計画(2017~) 「第4章 居住誘導区域、都市機能誘導区域設定の考え方」 との整合 車に依存しなく ても快適に 歩いて便利に 暮せるエリア 小浜市立地適正化計画より 暮らせるエリア 豊かな自然 歷史的町並 と共生する みと共生する エリア (エリアのイメージ) (都市の骨格) 車利用により快適 に暮らせるエリア ⇒拠点を充実し公共交通でつなぐ都市づくり

小浜市都市計画マスタープラン(2012~2020)

「第4章 分野別まちづくりの方針 交通体系整備の方針」 との整合

③公共交通網の配置・整備方針

高齢化の進展や環境負荷の低減などに対応し、自動車に過度に依存することなく暮らすこと ができるまちをめざすため、きめ細かい公共交通ネットワークの形成を図ります。

自動車利用の抑制に対する市民・団体・事業者の意識高揚を図るとともに、福井県全体で実 施している「カー・セーブデー(※)」への参加を促すなど、公共交通の利用を促進します。

ア) 鉄道網の充実

列車の増発や接続の改善、快速化などの鉄道サービスの充実

を要望すると / R周辺の整備 克阪神地域 め、琵琶湖若

確立をめざし

鉄道の利用を促進するため、結節点である駅の待合機能など の充実を図るとともに、パークアンドライド(®)の推進に向けた また、観光・ よび関係機関 線若狭ルート

機能の強化、観 JR 小浜駅など ける植栽や美化活 業者と協働®で

駐車場の整備を ウ) 地域公共交通体系の確立

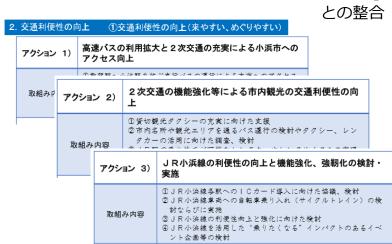
「あいあいバス」は、自家用車の利用拡大や少子化の進展な どにより、利用者数は年々減少傾向にありますが、高齢化が進 展する中で、移動制約者(※)の身近な移動手段として生活に欠か せない公共交通機関です。

このため、利用者のニーズに応じて効果的な路線を設定する とともに、運行ダイヤを編成し、利用促進を図ります。



北陸新幹線敦賀開業アクションプラン (2019~2023)

項目別アクションプラン 交通利便性の向上 |



小浜市における地域公共交通の課題に対する基本理念

まちを育み暮らしを支える公共交通を目指します

課題の整理

- 市民の移動ニーズ等を踏まえ、 あらゆる既存交通資源の活用を 検討し、地域の実情に合わせた **交通手段、形態の検討**が必要
- ② 買い物や通勤等の日常生活で公 共交通を利用、外出できる移動 手段の提供が必要
- ③ 高齢者や不慣れな人にも**分かり** やすい情報提供や快適に利用で きる環境の提供
- ④ 市民の公共交通の利用頻度・認 知度が低い。**市民全体**で**公共交 通を考える機運の醸成**が必要
- まちづくりと連携し、**まちの賑 わい創出に貢献**する地域公共交 通サービスの提供が必要

基本方針 I

>>課題①④

みんなで支え育む公共交通ネットワークの実現

- ◆ 地域の実情に応じた交通手段・形態の検討 (事業例) コミバス再編検討、他の移動サービスとの連携検討
- ◆ モビリティマネジメントの取組み (事業例) サポーター制度、乗車マナー意識啓発 など

基本方針Ⅱ >>課題②

日々のおでかけを支える公共交通サービスの提供

◆ 外出機会促進を支える取組み (事業例) 市街地循環バスの導入検討、 駅舎や店舗内での公共交通情報の充実 など

基本方針Ⅲ

>>課題③

わかりやすく使いやすい公共交通環境の提供

◆ 市内公共交通のわかりやすさを向上する取組み (事業例) 公共交通マップの改善、施設と連携した公共交通を 使ったおでかけ情報の発信 など

基本方針Ⅳ

>>課題⑤

まちの賑わいを生み出す移動サービスの創出

◆ 公共交通による来訪、市内回遊促進の取組み (事業例) イベントと連携した企画切符検討、 キャッシュレス化の推進とICカードによる特典等の検討 など

- ▶ 地域公共交通の活性化及び再生に関する法律に基づき、「小浜市地域公共交通計画」で定める計画の目標、基本方針及び目標を達成するために行う事業・実施主体などを、令和3年度中に関係者と協議・調整を実施し、計画案を作成する。
- ▶ 計画案を基にパブリックコメントを通じて、住民や利用者等からの意見を聴衆し、 反映させた計画を策定する
- ▶ 小浜市地域公共交通会議での協議・調整を踏まえて策定し、策定後は当会議で計画の 評価・検証及び改善にかかる検討・実施を行う。

スケジュール(予定)		R 3 年度						令和4年度				
	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
地域移動ニーズ把握	-			•								
問題点・課題の整理												
基本方針・目標の検討				-								
目標の実現のための施策検討								_				
公共交通計画(案)の作成							-					
パブリックコメント										_		
計画の策定												-
法定協議会の開催	•				•			♦	♦			♦

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

令和4年1月17日

協議会名:小浜市地域公共交通会議

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③生活交通確保維持改善計画又は 地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針			
【事業内容及び結果概要を記載】	A . B 【事業が適切に実施された(されている)かを記載。適切に実施されないた(されていない)場合には、実施されなかった事項及び理由等記載】	【補助申請を行う補助対象事業名、事業内容、実施時期等を記載】			
【地域及び公共交通の現況調査】 ・本市地勢、地理現況調査、上位・関連計画の整理、地域旅客 運送サービスの現況調査	A ■事業は適切に実施された				
【市民の現状、利用意向の把握】 ・市民アンケート 満16歳以上90歳未満1,500人対象、回収数545人(36%) ・意見交換会 市内2地区で開催。参加者計19名 ・交通事業者ヒアリング	A ■事業は適切に実施された	■補助対象事業名地域公共交通調査事業(計画策定事業)■事業内容小浜市地域交通見直し業務■実施時期			
【小浜市地域公共交通計画(案)のとりまとめ】 ・令和4年3月交通計画(案)策定予定	A ■事業は適切に実施されている	R3.7.1~R4.3.28 ■計画策定に向けた方針 本調査 *** またいます。 これを選出し、			
【コミュニティバスの現状整理・計画への位置付け】 ・コミュニティバスの運行形態の方向性を計画に反映予定	A ■事業は適切に実施されている	実現、②日々のおでかけを支える公共交通サービスの提供、③わかりやすく・使いやすい公共交通環境の提供、④まちの賑わいを支える移動サービスの創出の4つを方針とした小浜市地域公共交通計画を、来年4月以降にパブリックコメントを実施した上で、作成予定である。			
【地域公共交通会議の開催】 ・7月 第1回、11月 第2回、2月 第3回(予定)、3月 第4回(予定)	A ■事業は適切に実施されている	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,			

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和4年1月17日

協議会名:	小浜市地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域公共交通調査事業(計画策定事業)
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	小浜市の公共交通網は、備南6市町を結び広域連携軸の役割を果たす「JR 小浜線 小浜駅」に、おおい町・近江今津駅と本市を結ぶ「路線バス(2路線)」や「コミュニティバス」、「タクシー」が接続する公共交通網となっている。 コミュニティバスは、毎日運行路線5路線、隔日運行路線6路線を運行しており、小中高生や高齢者など、車を運転できない住民の日常生活の移動が主な利用である。コミュニティバスの運行には約1億1千万円の経費を要し、運賃収入は約1千万円、赤字額が約1億円である。 市内公共交通の主な問題点として、「住民の日々の利用ニーズに応じた移動手段」と「北陸新幹線敦賀開業時の観光客の移動手段」の確保が不十分な点などが挙げられる。その要因として、市内の主要な公共交通であるコミュニティバスが、利用者の7割を占める小中高生を中心としたダイヤ縄成であるため、その他の利用者にとって不便であることが挙げられる。既存のコミュニティバス運行のみでは、市民や来訪者の移動需要を十分に満たせない状況にある。 そこで、地域における移動ニーズや利用実態の把握及び課題等の整理を実施し、その結果を踏まえ、「既存移動サービスの最大活用」および「新たな移動サービスの導入」など地域にとって望ましい公共交通サービスの姿を定め、目標や評価方法を設定の上、事業を実施していくために必要な調査事業である。